

♪「アコーディオン独奏 三人会」ぶらり訪問記♪

~~~~~  
日時 2011年12月3日(土) 19:00～  
会場 阿佐ヶ谷 名曲喫茶 ヴィオロン  
~~~~~

初めて行く会場「ヴィオロン」は、JR 総武線阿佐ヶ谷駅北口よりスターロード(商店街)を2度曲がり住宅街へ入った一角にありました。

「ヴィオロン」は、喫茶店ですが、名曲喫茶とあるように店内には年代物と思われるレコード盤がたくさん積まれています。アンティーク調のつくりで、あちこちに音楽に関係する置物や飾り付けが目に飛び込んできます。かつての「うたごえ喫茶」「ジャズ喫茶」同様、現在では「名曲喫茶」も貴重な存在になりました。

演奏は、タイトルにあるように三人のアコーディオン弾きによる独奏会です。

最初の演奏者は、岩城里江子氏。幼少の頃地元の阿佐ヶ谷団地に住んでいたことがあるそうで、記憶を頼りに作曲したという「阿佐ヶ谷団地」、「ホレホレソング」(沖縄のサトウキビ畑での仕事歌のようです)、リード楽器の基になったといわれている笙の音色を出したかったという「旅するメコン」、転居が多く、あるとき以前住んでいた場所を訪ねたら建物が無くなり基礎だけが残っていて、玄関だった所に立ち“ただいま”と言ったら、家族が“お帰り”と返事をしたように思え、改めて自分は家族に愛されていたんだと思えたそのときの感情を歌にしたという「おかえり」など、オリジナル曲で構成されていたのが特徴です。

岩城さんの演奏ははじめて聴きました。曲の生まれたときの思い出を語りながらの演奏です。心の気持ちをおたまじゃくしで表現する力は素敵です。音色も柔らかくきれいでした。

二人目の演奏者は、坂本光世氏です。坂本さんの演奏は年に2～3回聴くことがあります。クラシック、タンゴ、マーチ、ワルツ、など幅広く挑戦しています。「アコーディオン・スタンダード

を中心に演奏しているけど、リズムをどうつくっていくかを課題に練習中です」とは本人のコメントです。演奏曲目は「アンダルシア」「アディオス・ノニーノ」「双頭の鷲の旗の下に」「木星」「チゴイネルワイゼン」でした。これだけの曲を途中休憩も無く立って弾く体力にはいつも感心します。坂本さんの演奏は聴き始めたころに比べると音が柔らかくなっているように感じました。

三人目の演奏者は、中尾和正氏です。中尾さんは、2009年(第21回)関東アコーディオン演奏交流会独奏部門の「一般上級の部」に出場され、会場の皆さんを魅了す見事な演奏で“入賞第1位”に輝いた方です。それから2年経過するので楽しみにしていました。

当時「僕はアンサンブルよりも独奏に興味がある」と話していたのを思い出します。今回も「クラシックをアコーディオンで演奏するなんてナンセンスという人もいるけれど、僕は“だって弾きたいんだもん”」とのコメントでした。

ピアニストを夢見て音楽大学で演奏力を磨いてきた中尾さんだからいえる言葉かもしれません。タンゴやシャンソン等他の世界の演奏も期待しますが、そんなこだわりを持つアコニストがいてもいいのでしょう。演奏曲は「スカルラッティのソナタ L.23」「モザイクエスパニョール」「ヴィヴァルディ「冬」」等7曲でした。(乙津:記)

写真は、無事演奏を終えて笑みのこぼれる三人(左から岩城さん、中尾さん、坂本さん)



